

## 第 24 回福島問題研究会議事録(ダイジェスト版)

日時:2017 年 5 月 12 日 14:30~17:00

場所:化学工学会応接室

出席者(敬称略):小林、横堀、郷、鈴木、橋本(文責)

### (1) 関連情報提供

#### 1) 化学工学会の状況(小林)

① 福島原発事故対策検討委員会の動き:29 年度から新たに研究会としての活動に切り替えられる予定だが、理事会への諮問・提案もまだなく且つ 28 年度に検討された「化学工学会としての福島問題への提言」のまとめもまだ報告がない。

② 4 月 21 日に NDF との会議があり、NDF から「燃料デブリ取り出しの意義とリスク低減の考え方」に関して「中長期廃炉に向けた考え方の紹介」があった。説明中の「長い目で見たリスクへの取り組み」に関連し、石棺のリスクを定量評価上したときの位置づけ、またトリチウムは濃縮、あるいは非濃縮の状態での放置のリスクを定量評価上したときの位置づけにつき質問をしたが、「時系列の定量的リスク評価は出来ていないことと社会的に影響の大きい問題なので・・・」ということで明確な回答はえられなかった。

・NDF の説明の全般について、「世界の叡智を入れるといいながらまだまだムラの中だけではないか、また化学工学的視点がまだまだないこと」等々の印象がぬぐえないが、ヘッドコーターを含む中枢部に原子力関係者外の人を加える必要性を訴えた。

#### 2) 東京電力の「福島廃炉技術開発推進室」の設置について(橋本)

東電では、4 月 1 日付けで「福島廃炉技術開発推進室」を設置し、同じく 4 月 1 日に開所した JAEA の廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟内に入居することが発表された(資料(1)、(2)参照)。

本件に係わり、研究課題や進め方を考えるうえで、できれば SCENet の福島問題研究会のメンバーと意見交換をしてみたい。さらに、学会や大学とどんな形でご協力いただくことが可能なのか等についてもお話を伺いたい」との話があった。

#### 3) NDF 研究連携タスクフォース腐食分科会の状況(鈴木)

本件、初会合が 5 月 16 日となり、報告は次回の研究会となる。

#### 4) その他

・JAEA 資料(資料(3))に基づき、1、2、3 号機原子炉内部の放射線強度調査結果、陸側遮水壁の効果等の説明があった。

・日本原子力学会情報メールサービスからの原子力総合シンポジウム(6 月 8 日(日本学術会議)開催の案内(資料 4))

・6 月 22 日(木)に(株)キュリオンジャパンの沼田殿(元 NDF)による講演会「ここまで来た福島第一原発の廃炉事業 技術的な進展と今後の展望」を予定している(田町駅前サンシャインビル)

## (2) その他の意見交換

- ・材料問題に限らず、「1Fおよび廃炉」は世界的に類を見ない壮大な実験場と見ることが出来る。あらゆる学会、産業界が取り組むべき格好の研究対象であるにもかかわらず、何故真剣に取り組まないのか？
- ・廃炉工程 40 年と言われており、またデブリ取り出し方針の決定が 2017 年度内にも言われているが、現実にはそれらの根拠も含めまだまだ分からないことだらけではないか？計画先行より、もっとじっくり現場を見ること、世界の叡智を集めることが必要ではないか？

## (3) 次回日程：6月23日 14:30 17:00 会場は未定

以上

資料(1) 東電発表資料「福島廃炉技術開発推進室の新規設置」について

資料(2) 廃炉国際協働センター国際共同研究等の開所式の開催について (JAEA)

資料(3) J A E A 資料(1,2,3号機原子炉内部の放射線強度調査結果、陸側遮水壁の効果等)

資料(4) 原子力総合シンポジウム(日本学術会議)開催の案内(日本原子力学会情報メールサービス)